宮浦ギャラリー六区

瀬戸内「緑川洋一」資料館
開館のお知らせ

緑川洋一 「白い村―ある石灰工場の記録」（1954）

瀬戸内「　　」資料館

2019年9月、プロジェクト≪瀬戸内「　　」資料館≫が直島・宮浦ギャラリー六区で始まります。

≪瀬戸内「　　」資料館≫は、瀬戸内海地域の景観、風土、民俗、歴史などについて、そこに住む人々、関わりを持つ人々とともに、各分野の専門家も交え、調査、収集、展示し、語り合う場として構想しました。一連の営みは記録として保存し、さらに次の展開に活用していきます。本企画はアーティスト・下道基行が監修します。

第一回は≪瀬戸内「緑川洋一」資料館≫と題し、1930年代から2000年初頭まで、移りゆく瀬戸内を撮影し続けた写真家・緑川洋一について調査し、展示します。緑川氏は生まれ育った岡山に住み続け、平日は歯科医として働き、日曜日になると撮影機材の入ったリュックサックを背負って各地に通い、撮影を続けました。緑川氏の写真には美しい瀬戸内海の風景だけでなく、急速な近代化にともなう傷ついた島々の姿や、厳しい環境下でも逞しく生きる人々がおさめられており、瀬戸内の近代をうかがい知ることができます。

本展示を通して、緑川氏が人生を通して瀬戸内海と向き合ってきた気配を感じとっていただけると期待しています。

取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

ベネッセアートサイト直島　広報担当　末廣・栗原
〒761-3110　香川県香川郡直島町2249-7　Tel. 087-892-2550　Fax.087-892-2011
E-mail　press@fukutake-artmuseum.jp　http://www.benesse-artsite.jp/

Benesse Art Site Naoshima

宮浦ギャラリー六区

2013年、直島・宮ノ浦地区に設置されたギャラリー。建築家・西沢大良による設計で、かつて島民が行き交っていた娯楽の場「パチンコ999（スリーナイン）」を、隣接する公園とともに、島内外の人々が集う憩いの場として開館しました。

アーティストプロフィール　緑川洋一

1915年～2001年。瀬戸内海に面した岡山県邑久町に生まれる。幼い頃から時間や季節によって千変万化する海の姿を眼と心に焼きつけてきた。22歳で歯科医院を開院するとともに、アマチュア写真家として活動を始める。戦後は女性写真やドキュメンタリー写真など活動の幅を広げていく。長時間露出や多重露光を駆使し、叙情的かつ冷静な引き算による写真が「色彩の魔術師」と称される所以である。主な写真集に『瀬戸内海』（1962）、『国立公園』（1967）、『日本の山河』（1975）がある。

アーティストプロフィール　下道基行

2001年、武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業。日本各地に残る戦争遺構を調査撮影したシリーズ『戦争のかたち』(2001-2005)、自らの祖父の遺した絵画を追って旅したシリーズ『日曜画家』(2006-2010)や、日本の国境線の外側を旅し日本植民地時代の遺構の現状を調査するシリーズ『torii』(2006-2012)など。旅やフィールドワークをベースにした制作活動を続けている。2019年、第58回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展の日本館代表の一人として選出される。

インフォメーション

開催期間：2019年9月28日 ～ 11月4日（瀬戸内国際芸術祭秋会期）
開館時間：10:00 ～ 17:00
休館日　：月曜日
　※ ただし、祝日の場合開館、翌日休館
会場　　：〒761-3110 香川県香川郡直島町2310-77 宮浦ギャラリー六区
鑑賞料金：510円（2019年10月1日より 520円）
　※15歳以下無料
　※瀬戸内国際芸術祭2019「作品鑑賞パスポート」で鑑賞できます。